

令和7年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
研究報告書

International Classification of Health Interventions (ICHI) の
国内普及の更なる促進に資する研究
研究代表者 川瀬 弘一 聖マリアンナ医科大学理事

研究要旨:

WHO 国際分類ファミリー(WHO-FIC)は、その中心分類として疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD)、国際生活機能分類(ICF)、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の3つを設けており、共通のファウンデーションから用語を引き出すことで作成、各分類が密接に関連している。本研究の目的は、ICHI の開発ならびに国内普及の更なる促進を進めるために、継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。2025年度はHIRG コンテンツ作業に本研究分担者の阿部幸喜氏が積極的に参加している。またこれまで通りWHO-FIC ネットワーク会議に参加し、ICHI の最新情報を収集するとともに、我が国からの意見を提案している。

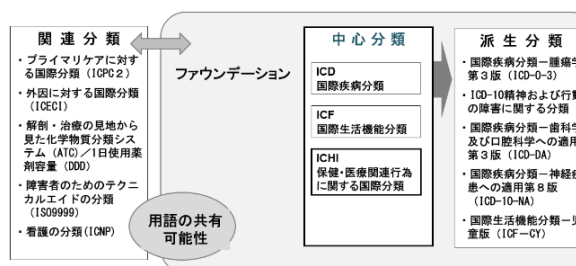
また ICHI の普及については今年度も ICHI 研修会を継続して開催してきた。ICHI の Extension codes の付記を積極的に指導し、グループワーク研修を行い、多くの参加者から ICHI に対する積極的な質問が数多く寄せられた。特にこれら研修会を通じて、国内でのさらなる活用には ICHI 検索ブラウザの日本語訳は必須であると実感させられた。まずは、脳神経外科領域、整形外科領域、消化器外科領域から日本語訳を開始したいと考えている。その際に現在急速に進歩してきた人工知能(AI)も積極的に用いたい。

さらには ICHI Reference Guide(ICHI 研修会用 2026 年)の改訂作業を行った。今後 ICHI テキストの改訂は令和8年度上半期に行い、令和8年度の ICHI 研修会に間に合わせたいと考えている。

研究分担者	荒井康夫・北里大学 未来工学部データサイエンス学科 准教授
田中裕次郎・埼玉医科大学 小児外科 教授	
岩中 督・東京大学医学部附属病院 名誉教授	
波多野賢二・国立精神・神経医療研究センター 病院データマネジメント室 室長	
高橋長裕・公益財団法人ちば県民保健予防財団総合健診センター 顧問	
瀬尾善宣・社会医療法人医仁会中村記念病院 副院長	
阿部幸喜・千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター 特任准教授	
小川俊夫・摂南大学 農学部食品栄養学科 教授	
	A. 研究目的 本研究の目的は、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の我が国での活用方法を提案し、それらを活用して継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。WHO 国際分類ファミリー(WHO-FIC)は、その中心分類として疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD)と国際生活機能分類(ICF)、ICHI の3つを設け、共通のファウンデーションから用語を引き出し作成、各分類が

密接に関連している(図1)。

図1. WHO 国際統計分類ファミリー(WHO-FIC) 中心分類である ICD、ICF、ICHI や派生分類は WHO-FIC のファウンデーションという共通の枠組みから用語が引き出されている



実際に各分類の併記の利用例(Use case)を集め、共有する作業が現在も進んでいる。ICHI は健康と福祉に関する情報および個人や集団に提供される医療行為に関する幅広い情報をコーディングすることで、標準化された共通言語として提供しており、近年中の世界保健総会(WHA)での採択が予測されている。

研究代表者および研究分担者は、これまで厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)で、WHO-FIC の年次会議、中間会議、ICHI Task Force 会議(ICHI 会議)に出席し、海外での活用事例など最新の情報を収集するとともに、我が国の知見を踏まえた意見提出を行ってきた。

ICHI の国内利用のためは、継続的な医療現場への教育・普及が必要である。令和2年度より「ICHI テキスト」を、令和4年度より「ICHI Reference Guide」の翻訳版を作成し、以後も改訂版を作成している。またこれまでこれら教材を用いてパソコンやスマホを用いたICHI コードの検索指導を中心としたICHI 研修会も開催してきた。今後も日本全国で研修会を継続していく必要がある。

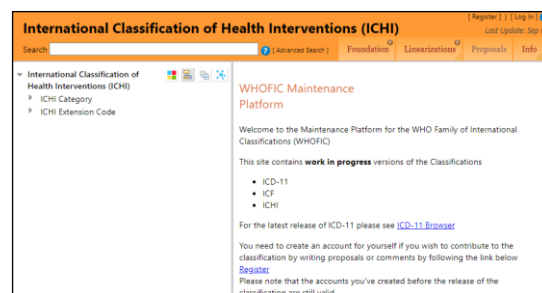
ICHI は単純な分類コードではなく、ICD やICF とともに利用可能であり、さらに臨床現場や研究など様々な場面での使用も想定されており、多様な保健・医療関連行為を表現できるよう体系化されている。内容はICD-11と同様、膨大で、書籍などのテキストからコード検索を行うのではなく、ウェブサイトでの活用が必須で、WHO から「ICHI online」

(<https://icd.who.int/dev11/l-ichi/en>)が提供されている(図2)。

WHO の公用語は、英語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、アラビア語の6か国語であり、WHO から発出されるICHIを含む国際統計分類においても、公用語以外の翻訳は各国に任されている。これまで「ICHI Reference Guide」やICHI Stem codeの3つの軸(Target、Action、Means)の仮訳を行ってきたが、現在も毎年 Stem Code の修正、追加が行われており、ウェブサイトの日本語訳は進んでいない。ICHI の利用者の多くは診療情報管理士などの医療事務職であり、英語表記のICHI 検索ブラウザを、翻訳機能を用いた利用法も含めてICHI 研修会等で指導している。国内でのさらなる活用にはICHI 検索ブラウザの日本語訳は必須である。

図2. ICHI online

(<https://icd.who.int/dev11/l-ichi/en>)



B. 研究方法

1) ICHI の動向

ICHI の今年度の動向について WHO-FIC ネットワーク年次会議・中間会議での活動、および今後について記述する。

2) ICHI の我が国における活用と普及活動

我が国での ICHI の活用を示し、さらに ICHI の継続的な教育、普及を行うスキームを確立する。

C. 研究結果

1) ICHI の動向

令和6年度 WHO-FIC 年次会議後より HIRG コンテンツ作業として、①maps of NCSP+ to ICHI、②ICHI Reference guide、③Education and information material、④Proposals on the platform、⑤Guidance for mapping to ICHI、⑥Content alignment and harmonisation) の6つの小グループで進められている。我が国からは本研究分担者の阿部幸喜氏が上記②⑤⑥の3つの作業分野に参加、今後は①にも参加予定である。

②と③についてはほぼ完成しており、②の ICHI Reference guide 作業では、令和7年10月に改訂版が公表された。⑥の「ICF に基づく ICHI ターゲット」と「ICHI の解剖学的ターゲットおよび ICD 解剖学エクステンションコード」についても確認作業を現在も継続している。

WHO-FIC ネットワーク中間会議は令和7年3月31日～4月4日にルワンダで開催され、WEB で参加した。WHO-FIC ネットワーク年次会議は、米国の WHO 脱退表明の影響より、予算削減等の影響もあり、ジュネーブでの開催(ハイブリッド開催)が継続されている。令和7年度も10月13日～18日にジュネーブ(ハイブリッド開催)でした。会議テーマは「WHO-FIC – Interoperability that Matters

(WHO-FIC - 意味のある相互運用性)」で、本研究代表者である川瀬弘一は Family Development Committee (国際分類ファミリー拡張委員会、FDC) のボードメンバーであるが、WEB で参加した。HIRG コンテンツ作業⑥において、ICHI においては、ICF に基づく ICHI ターゲットと、ICHI 解剖学的ターゲットと ICD 解剖学的エクステンションコードの対応づけが進行中で、ハーモナイゼーションは概念・階層・重複領域の統合を目指して継続して検討されている。

ICHI は近年中の WHA での承認に向けて、様々な改良に努めてきている。ICHI 検索ブラウザの修正・構築の詳細が報告され、また ICHI と ICD、ICF との併用、併記の利用例を集めて共有すべきという内容も継続して議論された。

また研究分担者の阿部幸喜氏が、WHOFIC のポスターとして「Which scheme is suitable for a successor to the K-code in Japan, STEM7 or ICHI, in the spinal surgical field? -Mapping study from K-code to STEM7 and ICHI-(脊椎外科領域の K コードにおいて、外保連試案でコード化している STEM7 と ICHI のどちらが適切か?—K コードから STEM7 および ICHI へのマッピング研究—)」を提出したところ、ポスタープレゼンテーションの機会を与えられ、また発表内容も高評価だった。

2) ICHI の我が国における活用と普及活動

多くの医療関係者に ICHI に対する理解を深めてもらう目的で、2021 年度から「ICHI テキスト」を作成している。この ICHI テキストは、ICHI の基本概念およびその構造、そして 136 例の事例紹介の形式をとっており、執筆者は研究代表者、研究分担者だけでなく、2019 年

に WHO-FIC で行われた ICHI フェース2テスト (ICHI-FiT) に参加していただいた診療情報管理士 38 名にも分担していただいている。現在 ICD と ICHI の Extension code の共通化が急ピッチで進められており、ICHI online において Extension code 検索が令和 7 年 2 月より随時可能となっている。まだすべてのコードは振られていないが、現在は ICD-11 と同様に「Postcoordination」が掲載されるようになってきている。

今後 136 例の事例紹介例を、新たな Extension code を付記した内容に修正した改訂版「ICHI テキスト 2026」を完成させたい。

我が国における ICHI の普及のため、今年度も、2 回の ICHI 研修会を開催した(図3)。都内 1 カ所と、これまで開催したことのない地域、高松で開催した。今回の研修会は、既に ICD-11 のコード検索に慣れた参加者も多く、Extension Codes 検索が必要な事例を多く取り入れた。

図3. ICHI 研修会

会場	日時	場所	参加者
東京	1月17日(土) 14:00~18:00	TKP新橋カンファレンスセンター	現地開催 (参加19名)
高松市	2月22日(土) 14:00~18:00	TKP高松カンファレンスセンター	現地開催 (参加14名)

研修内容は「WHO-FIC の中心分類の1つである ICHI の現状」や「Extension Codes を中心とした検索方法」等の講演だけでなく、今回新たな試みとしてグループワークを行った。研修会開催 1 週間前に参加者に 9~10 問の例題を予め配布し、ICHI online を用いて導き出した ICHI コードを各自が準備し、3~4 名のグループ内で検討、その結果を発表

していただいた。グループ演習では、疑問点や回答の導き方等に演習指導者が各グループに積極的に介入し指導した。その後に、グループワーク演習の結果発表となり、質疑応答を研究代表者・分担者が解説し、回答結果を導くための回答例も配布した。なお、これまで厚生労働科学研究費補助金で作成した「ICHI Reference Guide」も配布し、今後も利用していただける研修内容とした。

また研修会終了後も、個別質問コーナーを設け、解説等で十分理解できなかった点を個々に回答した。

研修後にアンケート調査も施行した(図4)。今後の ICHI 研修会に役立てたい。

図4. アンケート結果

【カテゴリ 1. 受講者属性】

◆ 1. ご年齢 (n=15)

- ・50代:6件
- ・40代:4件
- ・30代:4件
- ・20代:1件

【保有資格(1-2)】

- ・理学療法士
- ・Ais コーディングプロバイダー
- ・看護師(保健師・助産師)
- ・個人情報保護士・医療情報技師

【勤務先(1-3)】

- ・大半が「病院」勤務者
- ・1名「大学・専門学校」勤務

◆1-3-2. 業務内容 (n=15)

- ・診療情報管理:12件
- ・臨床研究補助/データマネジメント:1件
- ・医事請求:1件
- ・診療部門:1件

◆1-3-3. 実務歴 (n=14)

- ・10年以上:8件
- ・5年～10年:4件
- ・3年未満:2件

「カテゴリ 2. ICHIに関する知識」

◆ 2-1. ICHI の認知度 (n=13)

- ・ICHI は WHO-FIC の中心分類であることは理解している:9件
- ・ICHI-FIT にも参加して、かなり知っているつもり:2件
- ・今回の研修会で初めて知った:2件

◆ 2-2. ICHI 研修の受講経験 (n=15)

- ・ある:8件
- ・ない:7件

◆ 2-3. ICHI 研修の受講回数 (n=8)

- ・3回以上:2件
- ・2回:4件
- ・1回:2件

「カテゴリ 3. 環境」

1. 医学的知識に関する要望

・臨床理解の必要性

⇒術式や検査名から「どの部位に何をしているか」を正しく判別する力が必要

⇒カルテの内容から適切なコードを導き出すための、基本的な身体構造や治療法の学習

・教育の場の拡充

⇒養成校での教育、学会や生涯教育の充実、診療情報管理士向けの付加コースの設置

⇒自施設では経験できない「新しい技術や手術」を学ぶ機会(学会発表など)への期待

2. 現場の経験・運用に関する要望

・実践的な学習環境

⇒検索方法の基礎から、練習問題を用いた実戦的なトレーニングの実施

⇒仕事中に勉強時間を確保するのが難しいため、自主学習できる環境整備

・システムの導入と加算

⇒ICHI を簡単に使用できるソフトの開発

⇒診療録管理体制加算の要件化など、制度面での後押し

◆ 3-2. ICHI 研修の使用端末(n=15)

- ・PC:13件
- ・タブレット PC:1件
- ・スマートフォン:1件

◆ 3-3. ICHI Online のコードの引きやすさ (n=15)

- ・引きにくい:8件
- ・引きやすい:4件
- ・その他(慣れが必要等):2件

◆ 3-4. 英語検索における和訳の必要性 (n=15) ※5:非常に必要 ～ 1:不要

- ・スコア 5:10件
- ・スコア 4:2件
- ・スコア 3:3件

「カテゴリ 4. 教材・運営」

◆ 4-1. ICHI TEXT 2022 の分かりやすさ (n=14)

- ・分かりやすい:7件
- ・少し分かりにくい:4件
- ・分かりにくい:3件

◆ 4-2. ICHI Reference Guide の分かりやすさ (n=14)

- ・分かりやすい:5件
- ・少し分かりにくい:8件
- ・分かりにくい:1件

◆ 4-3. 今回の研修の難易度 (n=14)

- ・ちょうど良かった:7件
- ・難しかった:7件

特に多くの方から、日本語対応の充実、特に検索画面でコードによる検索ができるようにしてほしい、日本語で検索ができる機能を実装してほしい、ブラウザの自動翻訳(Edge や Safari)ではコードの表示が崩れたり、翻訳が不自然になったりするため、公式な日本語版 Web サイトを構築してほしい、というご意見をいただいた。

D. 考察

ICHI 開発が 2007 年にスタートして、今年で 19 年目を迎える。2019 年 7 月から 2020 年 2 月までに世界各国で行われた ICHI フィールドテストには、日本から 140 名が評価者として参加した。Public Health interventions(公衆衛生領域の保健・医療関連行為)については、標準的な言葉、用語が馴染みがなく、どの国においても正解率が低率であったため、この数年、WHO-FIC では公衆衛生領域の共通言語の開発、改善に積極的に取り組んだ結果、大部分の項目が追加・修正されている。今回の ICHI 研修会では、公衆衛生領域の例題も組み込んで、参加者に馴染んでいただけたらと考えたが、今後も継続していきたい。

ICHI コードは Stem code と Extension codes の組み合わせで構成されており、Stem code は 3 つの軸で表現されている。

Target (3 桁コード) は Action が実行される実態、Means(2 桁コード) は Action が実行されるプロセスと方法を示したもの、そして Approach(到達方法)の 3 つの軸から Health interventions の ICHI Stem code が作成されている。Target の大分類別に分けると「Interventions on body systems or functions (身体の部位あるいは身体機能の介入)」が 5,369 件、「Interventions on

Activities and participation domains(活動と参加の介入)」が 1,004 件、「Environment (環境の介入)」が 2,528 件、「Health-related Behaviours(健康関連の行動への介入)」が 707 件で、合わせて 9,608 件になっている(図 4)。

図 4. Target 大分類別の ICHI Stem code

	Target 大分類別	ICHI Stem code 数
1.	Interventions on body systems or functions	5,369
2.	Interventions on activities and participation domains	1,004
3.	Interventions on the environment	2,528
4.	Interventions on health-related behaviours	707
	合 計	9,608

また Extension codes は、Stem code では十分表現できない、あるいは区別できない保健・医療関連行為を精緻化するためにとても便利なコードで、Extension codes 付記することによって Stem code の詳細と粒度を拡張ことができる。さらに Extension Codes は、3 つの中心分類の一貫性を確保するために、ツール環境を強化中で、現在は ICD-11 と同様に「Postcoordination」が一部掲載されるようになった。

Extension codes は 8 つの大分類に分けられ、「Additional descriptive information(付加的な記述、情報)」、「Assistive products(支援製品)」、「Essential pathology tests(診断のためのテスト)」、「Quantifiers(数)」、「Telehealth(テレヘルス(遠隔医療を含む))」、「Therapeutic products(治療用製品)」、「Anatomy and topography(解剖と部位)」、「Topology Scale Value(部位スケール値)」からなっている(図 5)。

図 59. Extension codes

Extension codes 大分類	
1	Additional descriptive information (付加的な記述、情報)
2	Assistive products (支援製品)
3	Essential laboratory tests (診断のためのテスト)
4	Quantifiers (数)
5	Telehealth (テレヘルス(遠隔医療を含む))
6	Therapeutic products (治療用製品)
7	Anatomy and topography (解剖と部位)
8	Topology Scale Value (部位スケール値)

ICHI の Extension codes は WHO-FIC のファウンデーションという共通のストックから引き出すことが 2022 年の WHO-FIC ネットワーク年次会議で確認され、これにより ICD と ICHI の Extension codes の共通化が急ピッチで進められてきた。2025 年 1 月までは ICHI online で検索しても「No Code Assigned (コードが割り当てられていない)」と表示され、具体的なコードは振られていなかった。しかし 2025 年 2 月以降 ICHI online 上に一部の Extension codes が掲載されることになった。さらに現在では ICD-11 と同様に「Postcoordination」が一部掲載されるようになっている。

ICHI の利用者の多くは診療情報管理士などの医療事務職であり、英語表記の ICHI 検索ブラウザを、翻訳機能を用いた利用法も含めて ICHI 研修会等で指導している。国内でのさらなる活用には ICHI 検索ブラウザの日本語訳は必須である。今後は、脳神経外科領域、整形外科領域、消化器外科領域から日本語訳を開始したいと考えている。その際に現在急速進歩してきた人工知能(AI)も積極的に用いたい。

E. 結論

2025 年に WHA において ICHI の承認が期待されたが、準備不足とのことで叶わなかった。しかしながら現在 Extension codes の具体的なコードが振られるよう進んでおり、近年中の

WHA において ICHI の承認が期待できる。

WHA において ICHI が承認されると、ICD、ICF の中心分類が同じ土俵となり、これまで以上に世界中で利用されるようになると思われる。ICHI の我が国への活用と普及については、今後も多くの方に ICHI を理解していただけるよう「ICHI テキスト」「ICHI Reference Guid」を用いた講習会を継続し、これまでの経験を踏まえて、内容をブラッシュアップしていく予定である。そのために教育・普及の教材の基本となる「ICHI テキスト」の改訂を今回の Extension codes の変更を踏まえて出来るだけ早く修正したいと考えている。今後の最大の課題は、ICHI の日本語訳の作業であり、スピード感を持って対処したい。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Koki Abe, Hirokazu Kawase, Yoshinobu Seo, Osahiro, Takahashi. Mapping study from Japanese surgical procedure list STEM7 to ICHI. Workshop on International Classification of Health Interventions (ICHI) 16 – 19 November 2025 Kuwait City, Kuwait 2025 Nov.18
- 2) 荒井康夫: 医療安全向上に貢献する診療情報管理の役割 医療 DX 時代の展望, 診療情報管理, 37(1) 39-47, 2025
- 3) 長谷部莉子、瀬尾善宣、内山拓也、千田絵里奈、筑野友也、山田鈴華、高島綾、小島夕風、中村博彦. 原発性脳腫瘍における ICD-11 導入に向けての課題. 診療情報管理, 37(1): 94-97, 2025
- 4) 阿部幸喜. 解説: 精緻な死亡診断書の作

成と死亡統計の特殊性と重要性 ～原死因の選択には丁寧な外因の記載が大切です～.

診療情報管理, 37(1): 3-6, 2025

5) 川瀬弘一: ICHI 開発と今後に向けて. 診療情報管理 36(4): 3-4, 2025

6) 瀬尾善宣. ICD-11 と脳神経外科について. 診療情報管理 36(3): 40-48, 2024

7) 千田絵里奈, 瀬尾善宣, 長谷部莉子, 村上宣人, 岡亨治, 中村博彦. ICD-11 導入前の対策について: 頻出疾患である脳梗塞のコーディング不一致に関する検討. 診療情報管理 36(1): 82-86, 2024

8) 瀬尾善宣. ICD-11 と脳神経外科について. 診療情報管理 36(3): 40-48, 2024

9) Abe K, Kawase H, Yokogawa N, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Maki S, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Mapping the Japanese orthopaedic association national registry (JOANR) to the international classification of health interventions (ICHI), Journal of Orthopaedic Science, 2023. <https://doi.org/10.1016/j.jos.2023.01.002>

10) 川瀬弘一: 我が国における ICHI 活用の可能性. 診療情報管理 35(1): 23-32, 2023

11) 瀬尾善宣. 脳神経外科疾患について—ICD-11 を意識して. 診療情報管理 35(3): 3-6, 2023

2. 学会発表

1) Koki Abe, H. Kawase, Y. Seo, O. Takahashi, K. Yoshimura, H. Iida, M. Inoue, Y. Shiga, K. Inage, Y. Eguchi, S. Orita, S. Ohtori. Which scheme is suitable for a successor to the K-code in Japan, STEM7 or ICHI? – Mapping study from K-code to STEM7 and ICHI. WHO FIC Annual

Meeting 2025, Friday 17th Oct 14:45 – 16:10 2025 Oct.17 (Oral presentation)

2) Koki Abe, Hirokazu Kawase, Yoshinobu Seo, Yukie Takahashi, Yuichiro Sakamoto, Yukihiro Ueno, Hidekazu Iida, Kensuke Yoshimura. Mapping emergency medicine procedures and interventions in Japan to the International Classification of Health Interventions classification WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING 2025 Apr 4 (Oral presentation)

3) 阿部幸喜. 整形外科の ICHI と、joint Use としての ICF への期待. 第 122 回診療情報管理士生涯教育研修会. 東京. 2025 年 3 月.

4) 阿部幸喜 教育講演「整形外科の ICHI と、Joint Use としての ICF への期待」第 122 回診療情報管理士生涯教育研修会 2025 年 3 月 22 日

5) 瀬尾善宣, 中村博彦. 脳神経外科と世界保健機関国際分類ファミリー (WHO-FIC) 中心分類. 第 83 回日本脳神経外科学会学術大会. 横浜. 2024. 16~18

6) 瀬尾善宣. ICD-11 と脳神経外科について. 日本診療情報管理学会 第 119 回生涯教育研修会. 東京. 2024.7.

7) 阿部幸喜, 藤田香織, 松本万夫, 遠藤弘良, 鎌倉由香, 住友正幸, 瀬尾善宣, 高橋長裕, 塚本哲, 三木幸一郎, 牧田茂. 教育講演 ICD-10 から ICD-11 への移行に当たっての問題と教育 “Metastatic” の解釈のアンケート結果. 第 50 回日本診療情報管理学会学術大会. 福岡. 2024

8) 阿部幸喜, 高橋幸恵, 救急医療領域の手技・処置を対象とした国際分類 ICHI への Mapping. 第 50 回日本診療情報管理学会学

術大会. 福岡. 2024

9) Abe K, Fujita K, Suenaga H, Matsumoto K, Sumitomo M, Takahashi O, Endo H, Kamakura Y, Seo Y, Miki K, Makita S, Tsukamoto T, Akiyama J. Discrepancy between Japanese understanding and the principles of ICD-11 regarding the interpretation of the adjective 'metastatic' WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING ,18 October 2024

10) Abe K, Kawase K, Seo Y, Takahashi Y, Sakamoto Y, Ueno Y, Iida H, Yoshimura K. Mapping emergency medicine procedures and interventions in Japan to the International Classification of Health Interventions classification. WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING ,18 October 2024

11) 阿部幸喜、吉村健佑、飯田英和. 救急医療分野の国内処置介入行為と国際分類 ICHI との mapping について. 第 83 回日本公衆衛生学会. 札幌. 2024

12) Seo Y, Takahashi O, Kawase K, Matsumoto K, Abe K, Nakamura H, Suenaga H. Consideration of anatomical classification axis related to the brain in the WHO-FIC Foundation, WHO Family of International Classifications Network Annual Meeting 2023, 2023/10

13) 荒井康夫. Kコードの分類体系の見直しに関する現状第 49 回日本診療情報管理学会学術大会. 十和田. 2023

14) 川瀬弘一. Kコードの分類体系見直しにおける外保連基幹コード(STEM7)、ICHI コー

ドの検討. 第 49 回日本診療情報管理学会学術大会. 十和田. 2023

15) 瀬尾善宣. 脳神経外科手術における、Kコード、手術基幹コード(STEM7)、ICHI における相違点について. 第 49 回日本診療情報管理学会学術集会. 十和田. 2023

16) 瀬尾善宣、中村博彦. 脳神経外科手術における、Kコード、手術基幹コード(STEM7)、ICHI における相違点. 第 26 回日本臨床脳神経外科学会. 宇都宮. 2023

17) Abe K, Kawase H, Yokogawa N, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Maki S, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Oteri S. Mapping the Japanese Orthopaedic Association National Registry (JOANR) to ICHI, WHO Family of International Classifications Network Annual Meeting 2022, 2022/10

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特記事項なし

2. 実用新案登録

特記事項なし

3. その他

特記事項なし